

絶滅危惧種の沖縄固有種のコウモリを沖縄本島で 22 年ぶりに発見

概要

絶滅危惧種のヤンバルホオヒゲコウモリ（学名：Myotis yanbarensis）が、沖縄本島で 22 年ぶりに捕獲されました。京都大学大学院情報学研究科博士課程学生の Jason Preble 氏が、2018 年 2 月 20 日に沖縄本島北部のやんばるの森でフィールド調査中に発見し、生きたまま捕獲しました。このヤンバルホオヒゲコウモリは、1996 年にやんばるの亜熱帯のジャングルで初めて 2 体が発見されて以来、徳之島と奄美大島でわずかに数回観察されたのみで、沖縄本島では見つかっていませんでした。今回の発見は、ヤンバルホオヒゲコウモリの保護および沖縄の生態系保全に重要な意味を持つばかりでなく、2016 年に返還された在日米軍旧沖縄北部訓練場で行われた初めてのコウモリのフィールド調査という点でも大きな意義を持つものです。



生きたままの捕獲に成功したヤンバルホオヒゲコウモリ

1. ヤンバルホオヒゲコウモリの捕獲

絶滅危惧種のヤンバルホオヒゲコウモリ（学名：Myotis yanbarensis）が、沖縄本島で 22 年ぶりに捕獲されました。京都大学大学院情報学研究科博士課程学生の Jason Preble 氏が、2018 年 2 月 20 日に沖縄本島北部のやんばるの森でフィールド調査中に発見し、生きたまま捕獲したものです。

ヤンバルホオヒゲコウモリは、1996年にやんばるの亜熱帯のジャングルで初めて発見されました。このとき発見されたのは2体でしたが、その後徳之島と奄美大島でわずかに数回観察されたのみで、数度にわたるフィールド調査にもかかわらず、沖縄本島でふたたび見つかることはありませんでした。そのため、沖縄では絶滅したのではないかと危惧されていました。この樹上生活を行うコウモリは、沖縄本島と周辺地域の固有種であるため、日本の環境省と国際自然保護連合（International Union for the Conservation of Nature: IUCN）が強く保護の必要性を訴え、IUCNの「レッドリスト」において最も絶滅の危険性が高い「近絶滅種」に指定されました。

2018年2月20日午後8時5分に、Jason Preble氏は一匹のオスのヤンバルホオヒゲコウモリを捕らえました。体重はわずか4.9グラムで、健康状態は良さそうでした。放す前に、Preble氏はVHFトランスミッターによってこの個体を追跡し、2月23日の夜にもう一匹のオス（体重5.2グラム）を捕らえ、さらに2月27日の夜にも三匹目のオス（体重5.5グラム）を捕らえました。

今回の捕獲は、在日米軍の旧北部訓練場で行われ、コウモリの発する周波数と共鳴する高度な技術を用いた音響ルアーが使われました。この広大な森林は2016年12月に日本に返還され、京都大学の島コウモリ調査グループは、環境省・沖縄森林局そして安波ダムによって、この地域に入ることを承認された初めてのコウモリ調査隊となりました。

この地域は半世紀以上にわたって立ち入りが禁止されていたために、ヤンバルホオヒゲコウモリのような環境変化に敏感な野生動物にとっては、保護区のような役割を果たしていたと考えることができます。今回の発見は、このきわめて珍しい生物種の保護に希望を持たせるものですが、一方で、このヤンバルホオヒゲコウモリがやんばるの森の非常に限定された地域にしか生息できない生物種で、局所絶滅の危機にさらされていることも示唆しています。したがって、現在ユネスコ自然遺産の候補にも挙げられているこの地域をいかに保護してゆくか、極めて注意深い対策が必要となります。コウモリは、社会インフラの開発に非常に敏感であることが知られています。このことは例えば、2013年に石垣島で新空港建設のためにコウモリの洞窟が一掃され、そのために絶滅が懸念されているコウモリの個体数が激減したことにも現れているのです。*

* この件は、特に絶滅危惧種のカグラコウモリ（学名：Hipposideros turpis）の個体数に壊滅的な影響を与えました。（参考：<http://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/44187>）

2. 調査チームについて

Jason Preble氏は、京都大学大学院情報学研究科 Christian Vincenot 助教が代表を務める研究ユニット「島コウモリ調査グループ」のメンバーで、亜熱帯・熱帯地域の絶滅が危惧されているコウモリ種の研究に従事しています。このユニットは、同研究科社会情報学専攻の大手信人教授の生物圏情報学講座に所属しています。Preble氏の博士論文は、この地域に固有のヤンバルホオヒゲコウモリと、もう一種の同じく絶滅に瀕している森林性の「リュウキュウテングコウモリ」（学名：Murina ryukyuana）の保護を訴えるために、その生態を明らかにすることをテーマとしています。氏の研究活動は現在、プロ・ナトゥーラ・ファンド助成を受けて進められています。